

## モンゴル語の接尾辞-v, -laa<sup>4</sup>, -jee/-čee について

若松 元樹

(東アジア課程 モンゴル語専攻)

キーワード: モンゴル語, 接尾辞, 主語の人称, 疑問文, 共起

### 0. はじめに

モンゴル語ハルハ方言は、過去を表す為に動詞語幹に接尾辞をつけて表す。過去を表す接尾辞の内-v, -laa<sup>4</sup>, -jee/-čee は文を終止させる用法のみを持つ「終止形」の接尾辞である<sup>1</sup>。本稿は、上記の三つの接尾辞の用法等の違いを検討する事を目的とする。なお、本文中のグロス、和訳、例文番号、表番号はことわりのない限り筆者によるものとする。本稿は、三つの接尾辞を単なる過去の接尾辞であると断言するのを避けるため、-v, -laa<sup>4</sup>, -jee/-čee を表すグロスをそれぞれ V, LAA, JEE と定める。本稿のモンゴル語表記はモンゴル語キリル文字正書法を基にしたローマ字転写したものを使用し、表記方法はジンガン(2008)にならう<sup>2</sup>。

### 1. 先行研究

本稿では紙幅の都合上橋本(1993)、ジンガン(2010)、山越(2012)の接尾辞-v, -laa<sup>4</sup>, -jee/-čee に関連する記述部分のみを示す。

#### 1.1 橋本(1993)

以下では、橋本(1993)による過去を表す接尾辞に関する記述を要約する。なお、以下に示す例文のグロスと和訳は橋本(1993)によるものである。

橋本(1993)は、三つの接尾辞について「動詞語幹に付き、過去時の行為、状態、出来事などを指示する過去形接尾辞である」と定義している。一方で、三つの接尾辞は意味に関してまったく重なり合う同意義要素というわけではなく意味の分岐を見せるという。

第1の分岐は、-v と-laa<sup>4</sup>, -jee/-čee の間に見られる。接尾辞-v は、過去時の事態をアオリスト的に示すだけである一方で後者の二つの接尾辞には、現在時への影響を含む例が見出された。

<sup>1</sup> 過去を表す接尾辞には他に形動詞の-san<sup>4</sup>がある。形動詞とは、述語として用いられる叙述用法、他の名詞を修飾する名詞修飾用法、名詞的に用いられる名詞的用法という三つの用法がある。

<sup>2</sup> a=a, б=b, в=v, г=g, д=d, е=ye/yö, ё=yo, ж=j, з=z, и=i, й=i, к=k, л=l, м=m, н=n, о=o, ө=ö, п=p, р=r, с=s, т=t, у=u, ү=ü, ф=f, х=x, ц=c, ч=č, ш=š, ъ=ı, Ъ=ı, ы=iı, э=e, ю=yu/yü, я=ya(ジンガン 2008: 1)

(1) a. Xičeel exlex cag bolloo.  
 授業 始まる-[非過名] 時間 なる-[過]  
 「授業が始まる時間になった。」

b. Tanií xüü tanigdasgüí tom xün boljee.  
 あなたの 息子 見分けがつかないほど 大人の 人 なる-[過]  
 「あなたの息子さんは見分けがつかないほど大人になりました。」

(橋本 1993: 10)

第 2 の分岐は、-laa<sup>4</sup> と -jee/-čee の間で生じる。接尾辞-laa<sup>4</sup> は、現在時と直結した未来時を表す事ができるが-jee/-čee はそれを表す事ができない。

(2) Bi odoó yavlaa  
 私は 今 行く-[過]  
 「私は今行きます。」

(橋本 1993: 11)

橋本(1993)は接尾辞-laa<sup>4</sup> には、ある行為や事態が物理的/認知的に話者にとって制御可能である「制御可能性」という固有の意味特性があるという。この意味特性と二人称主語は話者にとって最も制御しがたい対象であるという特性が衝突する為、-laa<sup>4</sup> と二人称主語は同一文章中で共起しにくいと指摘する。

## 1.2 ジンガン(2010)

以下では、ジンガン(2010)による過去を表す接尾辞に関する記述を要約する。

ジンガン(2010)は、橋本(1993)が接尾辞-laa<sup>4</sup> には「制御可能性」という意味素性があると解釈する根拠の一つとして二人称との共起がまれであるということを挙げ、三つの接尾辞と共起する主語の人称との共起の強さを調査した。結果は以下の通りである。

表 1: 人称と各接尾辞との共起の強さ

	二人称との共起頻度	一人称との共起頻度
-laa <sup>4</sup>	29	822
-jee/-čee	16	54
-v	19	469

(ジンガン 2010: 94)

表 1 から接尾辞-laa<sup>4</sup> と二人称主語との共起関係が弱いことが観察されるが-jee, -v におい

でも同様に弱いという結果から二人称主語の共起がまれであるという現象は-laa<sup>4</sup> のみにおける現象ではないとジンガン(2010)は指摘する。

ジンガン(2010)は口語では-v が平叙文では用いられず疑問文において多く用いられていることが先行研究で述べられているにも関わらず、実際には疑問文における三つの接尾辞の出現率に関する相違は少ないのではないかと考え、疑問文における-v, -laa<sup>4</sup>, -jee/-čee の分布を調査した。調査の結果は以下の通りである。

表 2: -laa,-jee,-v の疑問文における分布と頻度

疑問文の類型 <sup>3</sup>	-laa	-jee	-v
真偽疑問文	77(17.2%)	46(13.9%)	<b><u>1167(80.9%)</u></b>
選択疑問文	0(0.0%)	<b><u>12(3.6%)</u></b>	20(1.4%)
補充疑問文	<b><u>275(61.5%)</u></b>	0(0.0%)	255(17.7%)
疑念的疑問文	0(0.0%)	<b><u>272(82.4%)</u></b>	0(0.0%)
確認想起的疑問文	<b><u>95(21.2%)</u></b>	0(0.0%)	0(0.0%)
計	447(100%)	330(100%)	1442(100%)

(ジンガン 2010: 99)

-v は、疑問文で使われる頻度が最も高く-laa<sup>4</sup> と-jee/-čee と比較するとおよそ3倍ほどであったことから-v は疑問文で多く使われる。ただし、80.9%が真偽疑問文である。-laa は補充疑問文の出現割合が大きい、-jee と-v には一般的でない確認想起的疑問文の用法が多い。-jee は、疑念的疑問文に出現する事ができ-laa と-v とは異なる。選択疑問文に出現する点でも-laa とは異なる。以下に、ジンガン(2010)で挙げられた接尾辞-v が使われた真偽疑問文の例を挙げる

- (3)   či   dor-oos   ir-ev   üü?  
       2SG   下-ABL   来る-V   QP

「君は地方から来たか?」

(ジンガン 2010: 100)

### 1.3 山越(2012)

以下では、山越(2012)による過去を表す接尾辞に関する記述を要約する。なお、以下に示す例文の和訳は山越(2012)によるものである。

接尾辞-v について山越(2012)は、過去に起こった動作に用いられると述べている。特に書き言葉や新聞の見出しなどで目にする事が多く、話し言葉ではあまり用いられないが疑問文においては、話し言葉でも用いられると指摘する。

<sup>3</sup> 真偽疑問文、選択疑問文、補充疑問文などの用語は、日本語記述文法研究会編(2003)に従っている。

- (4) Zasg-iín      gazr-iín      giš-üüd      xöröng-öö      med-üül-ev.  
政府-GEN    場所-GEN      党员-PL      財産-REFL    知る-CAUS-V  
「国会議員が資産を公開した。」      (山越 2012: 90)

接尾辞-laa<sup>4</sup>について山越(2012)は、過去に起こった動作、極めて近い未来に確実に行われる動作に対して用いられると指摘する。

接尾辞-jee について山越(2012)は「過去に起こったとされるが、話し手自身が確認していない出来事」、「話し手がその事態を実際に経験したわけではない過去の出来事」に対して用いられ昔話や過去の歴史的事実を述べる文に頻繁に見られると述べる。加えて、主語が1人称あるいは2人称である場合には用いられにくいと指摘している。

- (5) Ter    xoyor-iín    yaria-g      Dorj      sons-čee.  
3SG    二-GEN    会話-ACC    ドルジ(人名)    聞く-JEE  
「その二人の会話をドルジは聞いた(そうだ)。」      (山越 2012: 92)

#### 1. 4. 先行研究のまとめ

-laa<sup>4</sup>は現在から未来について表す用法が可能であること、-jee/-čee は非過去の文脈における用法も解釈可能というように表すことのできる時間は-vと比較すると幅広い。

橋本(1993)、山越(2012)は、主語と接尾辞-v, -laa<sup>4</sup>, -jee/-čee の共起についての記述が見られる。橋本(1993)は-laa<sup>4</sup>と2人称主語が共起しにくいと指摘する一方で山越(2012)は-jee/-čeeと、1人称主語と2人称主語がそれぞれ共起しにくいと指摘している。ジンガン(2010)は、橋本(1993)が指摘した現象は、接尾辞-v, -jee/-čee においても起こりうるもので-laa<sup>4</sup>のみで起こる特有の現象ではないと述べている。

ジンガン(2010)、山越(2012)は疑問文と接尾辞-v, -laa<sup>4</sup>, -jee/-čee の関連性についての記述が見られ、いずれも接尾辞-v は疑問文においては頻繁に用いられると指摘している。

## 2. 調査

### 2. 1 調査方法

会話文における接尾辞-v, -laa<sup>4</sup>, -jee/-čee の用例を収集することを目的に Oídov(1966)『道』(全167ページ)というモンゴルの戯曲作品、及び会話文における接尾辞-v, -laa<sup>4</sup>, -jee/-čee の用例と比較するためモンゴルの新聞社 Önnödör の9月1日から11月10日の間の政治、外交に関するインターネットサイトの記事の二つの資料から接尾辞-v, -laa<sup>4</sup>, -jee/-čee が現れる文を Microsoft Excel に入力し手作業でそれぞれを検索して接尾辞-v, -laa<sup>4</sup>, -jee/-čee の分布、主語との共起等を分析した。

## 2.2 調査結果

### 2.2.1 『道』の調査結果

以下では、Oídov(1966)『道』における三つの接尾辞-v, -laa<sup>4</sup>, -jee/-čee の調査結果をまとめる。なお、以下に示す例文の和訳は小沢(1966)によるものである。

Oídov(1966)『道』からは、接尾辞-v, -laa<sup>4</sup>, -jee/-čee が合計 242 例見られた。以下に接尾辞の出現回数と割合を表にまとめて示す。

表 3: 『道』における接尾辞の分布

-v	-laa <sup>4</sup>	-jee/-čee	計
136(56.2%)	81(33.5%)	25(10.3%)	242(100%)

三つの接尾辞の総計は-v が半数以上を占める一方で、-jee/-čee は全体の約 10%を占めるのみであるという結果になった。

次に、三つの接尾辞と共起する主語の人称についての結果をまとめる。以下に Oídov(1966)『道』における主語の人称と三つの接尾辞の共起の分布を表で示す。

表 4: 主語の人称と接尾辞の共起の分布

主語	-v	-laa <sup>4</sup>	-jee/-čee	計
1 人称単数	7	46	4	57
2 人称単数	19	6	3	28
3 人称単数	82	21	14	117
1 人称複数	1	5	0	6
2 人称複数	1	1	0	2
3 人称複数	26	2	4	32
計	136	81	25	242

橋本(1993)は-laa<sup>4</sup>と 2 人称主語、山越(2012)は-jee/-čee と 1 人称主語と 2 人称主語がそれぞれ共起しにくいと指摘した。調査結果からは、-laa<sup>4</sup>と 2 人称主語が共起する用例が見られたが-laa<sup>4</sup>と 1 人称、3 人称主語との共起と比較すると用例数は少ない。-jee/-čee と 1 人称、2 人称主語の共起についても 3 人称主語と共起した用例数に比較すると大幅に少ない。

-laa<sup>4</sup>と 2 人称主語の共起の例

- (6) Donoí      guai ta      odoo      Gerel-teí-g-ee      uulz-laa.  
 ドノイ      さん 2SG      今      ゲレル-EXIS-E-REFL      会う-LAA  
 「ドノイさん、ゲレルと今会いましたね。」      (『道』: 126 ページ)

-jee/-čee と 1 人称主語の共起の例

- (7) bi saíxan xüüxd-üüd-ífn-xee tolgóí-g av-ax ge-j  
 1SG 美しい 子供-PL-GEN- REFL 頭-ACC 取る-P.NPST 言う-C.SIM

ödií boltl-oo amí-d yav-san yum baí-jee.  
 これほど なるまで-REFL 生命-DAT 行く-P.PRF 物 ある-JEE

「わしは可愛い子供たちの死水を取るために、これまで生きて来たのだったか。」

(『道』: 106 ページ)

-jee/-čee と 2 人称主語の共起の例

- (8) Ta bid-end xel-sen üg-ee mart-jee.  
 2SG 1PL-DAT 言う-P.PRF 語-REFL 忘れる-JEE

「(あなたは)われわれに言った言葉を忘れましたね。」

(『道』: 164 ページ)

次に、疑問文と三つの接尾辞の共起についての結果をまとめる。本調査では三つの接尾辞が現れる疑問文は 41 例見られた。以下に、疑問文における三つの接尾辞の分布を、正否を問う疑問文である Yes/No 疑問文、疑問詞<sup>4</sup>を伴う疑問文である疑問詞疑問文の順に表にしてまとめる。

表 5: Yes/No 疑問文における接尾辞の分布

-v	-laa <sup>4</sup>	-jee/-čee	計
17(100%)	0(0%)	0(0%)	17(100%)

表 6: 疑問詞疑問文における接尾辞の分布

-v	-laa <sup>4</sup>	-jee/-čee	計
18(75.0%)	6(25.0%)	0(0%)	24(100%)

Yes/No 疑問文、疑問詞疑問文のいずれにおいても接尾辞-v と共起する例が多数を占めた。特に Yes/No 疑問文はすべて接尾辞-v と共起するという結果になった。

- (9) Za xüü mini surguuli-a togs-ööd bür ir-ev üü?  
 はい 息子 1SG.POSS 学校-ACC 終わる-ANT 全く 来る-V QP

「よう一、学校を卒えて本当に帰って来たのか?」

(『道』: 68 ページ)

接尾辞-laa<sup>4</sup>は疑問詞疑問文において共起する例が 6 例現れた。疑問詞疑問文と接尾辞-laa<sup>4</sup>が共起した 6 例のうち 5 例は疑問動詞 yaa-(如何にする)が使われた用例であった。

<sup>4</sup> ここでいう「疑問詞」には、名詞に分類されるもの、形容詞に分類されるもの、動詞に分類されるものなど、様々な品詞の語彙が含まれる。

- (10) önöö utas maamı yaa-laa?  
 今 電話 1PL.POSS 如何にする-LAA  
 「例の電話はどうだ?」 (『道』: 142 ページ)

今回の調査では、接尾辞-jee/-čee が疑問文に現れる例が見られなかった。これは、そもそも『道』で収集された接尾辞-jee/-čee の全ての用例数が 242 例中 25 例というように接尾辞-v, -laa<sup>4</sup> の用例数と比較して極端に少なかったことが一因であると筆者は考える。

### 2.2.2 新聞 Önnödör の調査結果

以下では、モンゴルの新聞社 Önnödör のインターネットサイト記事の調査結果をまとめる。今回調査の対象とした記事は、2014 年 9 月 1 日から 11 月 10 日の間の政治、外交に関するインターネットサイト記事である。

インターネットサイト記事からは、三つの接尾辞-v, -laa<sup>4</sup>, -jee/-čee が合計で 272 例見られた。以下に三つの接尾辞の出現回数と割合を表にまとめて示す。

表 7: Önnödör のインターネットサイト記事における接尾辞の分布

-v	-laa <sup>4</sup>	-jee/-čee	計
79(29.04%)	117(43.01%)	76(27.94%)	272(100%)

『道』では、-v が合計の半分以上を占め最も多く出現したがインターネットサイト記事においては、接尾辞-laa<sup>4</sup> が合計の半分弱を占め最も多く出現し、-v と-jee/-čee がほぼ同じ回数出現するという結果になった。

次に、三つの接尾辞と共起する主語の人称についての結果をまとめる。インターネットサイト記事においては、出現した接尾辞 272 例の全てにおいて 1 人称、2 人称主語は出現せず、共起した主語はすべて 3 人称であった。これは、新聞の役割が主に 3 人称の人物等についての情報を客観的に伝えることを目的としている為であると筆者は考える。

次に、疑問文と三つの接尾辞の共起についての結果をまとめる。今回の調査では、3 つの接尾辞が現れた疑問文は 7 例見られた。出現した疑問文の 7 例は、全て正否を問う Yes/No 疑問文であり、いずれの疑問文も接尾辞-v と共起した。

- (11) 2008 on-í bütc-iíg xoyor salga-j danxaí-lga-san  
 2008 年-GEN 構造-ACC 二 区別する-C.SIM かさばる-CAUS-P.PRF
- aldaa-g-aa Yörönxií said yuu-nií ömnö ergen xar-ax  
 誤り-E-REFL 総体の 大臣 何-GEN 前 周囲に 見る-P.NPST

bol-ov uu.

なる-VQP

「2008年の構造を2つに区別してかさばらせた誤りを総理大臣は何の前で周囲にみるようになっただろうか。」 (2014/9/12)

### 3. まとめ

今回の調査より、橋本(1993)が指摘した接尾辞-*laa*<sup>4</sup>と2人称主語が共起しにくい点、山越(2012)が指摘した接尾辞-*jee/-čee*と1人称、2人称主語が共起しにくい点については用例が得られたが用例数は比較的少ない為、筆者は以上の先行研究を支持する。ジンガン(2010)、山越(2012)が指摘した疑問文において接尾辞-*v*が用いられるという点については、今回の調査により接尾辞-*v*が、疑問文で頻繁に用いられたという結果を得たことから疑問文と接尾辞-*v*についての先行研究を支持する。戯曲『道』では、接尾辞-*laa*<sup>4</sup>が見られた疑問文6例のうち5例が、疑問動詞 *yaa*-(如何にする)が用いられた用例であるという特徴も見られた。

### 4. 今後の課題

今回は戯曲『道』とモンゴルの新聞社 *Önödör* のインターネットサイト記事を調査資料として利用した。今後は上記の資料の更なる分析、他のモンゴルで出版された小説等からの調査、話し言葉における三つの接尾辞の特徴を知る為のアンケート調査という三つの調査を並行して行いたい。

#### 略号一覧

1, 2, 3: 1st, 2nd, 3rd person 1, 2, 3 人称/ABL: ablative 奪格/ACC: accusative 対格/ANT: anterior 前方性/C: converb 副動詞/CAUS: causative 使役/DAT: dative 与格/E: epenthesis 挿入子音/EXIS: existence 存在/GEN: genitive 属格 /NPST: non-past 非過去/P: participle 分詞/PL: plural 複数/POSS: possessive 所有/PRF: perfect 完了/QP: question particle 疑問小辞/REFL: reflexive 再帰/SG: singular 単数/SIM: simultaneous 同時性

#### 参考文献

ジンガン (2008) 「モンゴル語の動詞語尾-*laa* と-*jee* について—コーパスに基づく分析—」  
日本言語学会第137回大会/ジンガン(2010) 『モンゴル語のモダリティ: コーパスに基づく記述的研究』東京外国語大学大学院総合国際学研究所博士論文/日本語記述文法研究会編(2003) 『現代日本語文法 4 第8部モダリティ』東京: くろしお出版/橋本邦彦(1993) 「過去の領域—モンゴル語の過去形接尾辞の意味について—」『言語研究』104: 1-20 /山越康裕(2012) 『詳しくわかるモンゴル語文法』東京: 白水社

#### 調査資料

Oídov, Č. (1966) 『道』(小沢重男訳) 東京: 大学書林/“Önödör” <http://mongolnews.mn/> (最終閲覧日: 2015/1/7)